

避難訓練の訓練!?

ロールプレイに意味はない!

2019.05.10

No.69

校長 渡邊 幸二

連休が終わったと思ったら、5月ももうすでに半ばです。そして火曜日は、第1回目の避難訓練。以前からお話しているとおり、避難訓練は、自分で自分の命を守ることができる資質を高めるために行う学習です。決してひとつの避難経路を覚えるためとか、教師が計画通りに役割をこなす(ロールプレイ)するためとかではありません。



ねらいの本当の意図

今回の避難訓練のねらいとして、担当からは以下の4点が示されています。

(1) 児童

- ① 真剣に自分の命を守る行動をとる。
- ② 避難経路(防火扉の位置を含む)と非常口を確認し、覚える。

(2) 職員

- ① 児童を安全かつ迅速に避難誘導する。
- ② 緊急時の実際の動きが適切だったか検討し、次に活かす。

(1)-①は、具体的な姿としてはどういう姿でしょうか？一つ一つあげたらきりがありません。つまり、この目標はそういう具体的な姿を求めているものではないということです。「心構え」というか「危機対応の基本姿勢」を言っているのでしょうか。危機に対しては、常にベストを尽くす(最善を尽くす)という態度が取れるかどうかということです。そういうマインドセットをしてくださいということでしょう。

(1)-②はどうでしょう？自分は「教室」にいて「家庭科室」から出火した場合の避難経路や避難口がわかれば合格ということでしょうか。それでは「一を聞いて、一を知る」だけ、 $1+1=2$ にしかならない学習です。つまり「使えない知識」の注入です。今必要とされている「知識」は、**実際場面で活用できる知識**です。ということは、「避難経路」とは**どういう選択の結果の経路なのか、なぜその非常口を選ぶべきなのか、それを「知識」として知って、実際の訓練で活用した結果、今日のルートと出口の選択**ということではないかということです。

まず、やってみよう！そして、失敗から学ぼうとする人に育ててください。